

作成日：1997年8月7日
 更新日：2022年5月16日
 Ver. 9.0

安全データシート

1. 化学品及び会社情報

化学品の名称： アリストップ油剤

供給者の会社名称、住所及び電話番号

会社名： 株式会社アグリマート

住所： 〒104-0031 東京都中央区京橋 3-12-2 京橋第2有楽ビル

TEL. 03-5159-1711, FAX. 03-5159-1712

e-mail: agm-info@agrimart.co.jp

推奨用途及び使用上の制限：白蟻防除剤

2. 危険有害性の要約

GHS分類

物理化学的危険性	引火性液体	区分3
健康有害性	急性毒性（経口）	区分4
	急性毒性（経皮）	区分4
	吸入毒性（ミスト）	区分4
	目に対する重篤な損傷性／目刺激性	区分2
環境有害性	皮膚感作性	区分1
	誤えん有害性	区分1
	水生環境有害性 短期(急性)	区分2
	水生環境有害性 長期(慢性)	区分1

上記で記載がない危険有害性は、「区分に該当しない」か「分類できない」。

GHSラベル要素

絵表示



注意喚起語

危険

注意書き

引火性液体
 飲み込むと有害
 皮膚に接触すると有害
 ミストを吸入すると有害
 強い眼刺激
 アレルギー性皮膚反応を起こすおそれ
 飲み込んで気道に侵入すると生命に危険のおそれ

【安全対策】

- 熱、高温のもの、火花、裸火及び他の着火源から遠ざけること。禁煙。
- 容器を密閉しておくこと。
- 容器を接地しアースをとること。
- 防爆型の【電気機器／換気装置／照明機器】を使用すること。

- 火花を発生させない工具を使用すること。
- 静電気放電に対する措置を講ずること。
- ミストの吸入を避けること。
- 取扱い後は手をよく洗うこと。
- この製品を使用するときに、飲食又は喫煙をしないこと。
- 屋外又は換気の良い場所でだけ使用すること。
- 汚染された作業衣は作業場から出さないこと。
- 環境への放出を避けること。

【応急措置】

- 気分が悪いときは医師に連絡すること。
- 特別な処置が必要である（4を参照）。
- 飲み込んだ場合、直ちに医師に連絡すること。
- 皮膚に付着した場合：多量の水で洗うこと。
- 吸入した場合：空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。
- 眼の刺激が続く場合：医師の診察および手当てを受けること。
- 火災の場合：消火するために「5. 火災の措置」に記載の消火剤を使用すること。
- 皮膚（又は髪）に付着した場合：直ちに汚染された衣類を全て脱ぐこと。皮膚を水で洗うこと。
- 皮膚刺激又は発しん（疹）が生じた場合：医師の診察／手当てを受けること。
- 汚染された衣類を直ちに全て脱ぎ、再使用する場合には洗濯をすること。
- 無理に吐かせないこと
- 漏出物を回収すること。

【保管】

- 施錠して保管すること。
- 換気の良い場所で保管すること。涼しいところに置くこと。

【廃棄】

- 内容物、容器を法、条例等に従って安全に処理する。または都道府県知事等の許可を受けた専門の産業廃棄物処理業者に委託して適切に処理する。

他の危険有害性：特になし。

3. 組成及び成分情報

化学物質・混合物の区分：混合物

成分及び含有量：

成分	含有量(w/v)	CAS No.	安衛法 No.	化審法 No.
2 - メチルビフェニル - 3 - イルメチル = (Z) - (1RS, 3RS) - 3 - (2 - クロロ - 3, 3 - トリフルオロプロパ - 1 - エニル) - 2, 2 - ジメチルシクロプロパンカルボキシラート (一般名 ビフェントリン)	0.05%	82657-04-3	7-(3)-277	(4)-1701
3-ヨード-2-プロピニルブチルカーバメート (一般名 IPBC)	5.0%	55406-53-6	2-(5)-170	(2)-3456
界面活性剤、水等	残	—	—	—

4. 応急措置

吸入した場合：被災者を直ちに新鮮な空気のところへ移し、安静に保つ。異常がある場合は医師の診断を受ける。

皮膚に付着した場合：汚染された着衣、靴等を速やかに脱ぎ、付着部を多量の水と石けんでよく洗浄する。異常が現れた場合には、医師の診断を受ける。

眼に入った場合：直ちに清浄な流水で数分間洗浄する。眼球、まぶたの隅々まで水がよく行きわたるように洗う。コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場

合は外し、その後も洗浄を続ける。医師の診断を受ける。

飲み込んだ場合：水でよく口の中を洗浄し、コップ1~2杯の水を飲ませる。意識の無い時には口から何も与えてはならない。医師の診断を受ける。
 ビフェントリンには解毒剤としてメトカルバモールおよび隆庵アトロピンが有効

5. 火災時の措置

消火時の注意：消火活動には必ず適切な保護具(自給式空気呼吸器等)を着用し風上より行う。燃烧又は高温により発生するガス、煙、蒸気、ミストを吸い込まないように注意する。消火水が下水や河川に流れ込まないように適切な処置をとる。

消火剤：粉末、泡沫、炭酸ガス、乾燥砂、粉末ドライケミカル
 使ってはならない消火剤：水

6. 漏出時の措置

人体に対する注意事項、保護具及び緊急時措置：

付近の人を風上に避難させ、漏出現場への立ち入りを禁止する。適切な保護具(保護衣、保護眼鏡、保護マスク等)を着用して、眼や皮膚に触れたり、ミスト、ガスを吸い込んだりしないようにする。

環境に対する注意事項：

漏出物や洗浄水等が河川、下水等水系に流出し、環境への影響を与えないように措置する。

封じ込め及び浄化の方法及び機材：

衝撃、静電気により火花が発生しないような材質の用具を用いて回収する。漏出物を回収すること。漏出液を密閉できる容器にできる限り集め、残存液を土、砂、ケイソウ土等不活性物質に吸着させて密閉容器に回収する。危険でなければ、漏出物を遮断し、漏れを止める。排水溝、下水溝、地下室あるいは閉鎖場所への浸入を防ぐこと。引火の可能性があるので、防爆型のポンプを使用する。火花を発生しない防爆型の安全な機暑及び用具を使用する。屋内の湯合は換気を良くする。関係部署に通報し応援を求める。付近の着火物、高温体及び可燃物を速やかに取り除く。

7. 取扱い及び保管上の注意

取扱い：消防法の危険物の取扱基準に従う。容器を転倒させたり、落下させたり、強い衝撃を加えたり、又は引きずるなどの取扱いをしてはならない。屋内の取扱湯所には、換気装置を設置して使用する。直接人体に触れないよう、不浸透性の手袋等の保護具を着用する。直接手で取り扱うような作業は避ける。

火気、静電気、衝撃火花等による着火源が生じないように注意する。周辺での高温物、スパーク、火気の使用を禁止する。禁煙-静電気対策のため、装置などは接地し、電気機器類は防爆型(安全増型)のものとする。また作業着、作業靴は静電性のものを用いる。作業終了後は、うがい手洗いを十分に行う。

保管：換気の良い場所に保管すること。容器を密閉しておくこと。直射日光を避けて保管すること。涼しいところに置くこと。消防法に定められた危険物貯蔵所に保管すること。屋内で保管すること。5~35℃の雰囲気での保管すること。

8. ばく露防止及び保護措置

設備対策：局所排気装置を設置する。取扱い作業場の近くに洗眼、うがい、手洗い、安全シャワー設備を設置する。

個人用保護具： 状況に応じた適切な保護具を着用する。保護マスク、防毒マスク(有毒ガス用)、保護眼鏡、ゴーグル、保護面、保護衣(不浸透性、静電気防止服)、エプロン、ゴム手袋

作業時に着用していた衣類等は、他のものと分けて洗濯する。

9. 物理的及び化学的性質

物理状態： 液体
 色： 淡黄色透明
 臭い： データ無し。
 融点/凝固点： データ無し。
 沸点又は初留点及び沸点範囲： データ無し。
 可燃性： 該当しない。
 爆発下限界及び爆発上限界/可燃限界： データ無し。
 引火点： 59℃
 自然発火点： 常温で空気と接触しても自然発火しない。
 分解温度： データ無し。
 pH： データ無し
 動粘性率： データ無し。
 溶解度： データ無し。
 n-オクタノール/水分配係数： データ無し。
 蒸気圧： データ無し。
 密度及び/又は相対密度： 0.75-0.85 (23℃)
 相対ガス密度： データ無し。
 粒子特性： データ無し。
 粘度： データ無し。

10. 安定性及び反応性

反応性： データ無し。
 化学的安定性： 通常の取扱い条件では安定。
 危険有害反応可能性： データ無し。
 避けるべき条件： 静電気、スパーク、裸火、直射日光
 混触危険物： データ無し。
 危険有害な分解生成物： 一酸化炭素、窒素酸化物、ハロゲンガスが発生する

11. 有害性情報

眼に対する重篤な損傷性又は眼刺激性：
 区分1に分類される IPBC を 0.5%含有することから区分2とした。
 皮膚感作性： 芳香族炭化水素区分1
 誤えん有害性： 脂訪族/脂環式炭化水素混合物： 区分1

12. 環境影響情報

水生環境有害性(急性)：
 急性区分1に分類される成分の含量及びその毒性値から推定し、区分2とした。
 水生環境有害性(長期間)：
 慢性区分1に分類される成分の含量及びその毒性値から推定し、区分1とした。

生態毒性： 製剤のデータ無し。
 残留性・分解性： 製剤のデータ無し。
 生体蓄積性： 製剤のデータ無し。

土壌中への移動性： 製剤のデータ無し。
オゾン層への有害性： 製剤のデータ無し。

13. 廃棄上の注意

法、条例等に従って安全に処理する。または産業廃棄物処理業者に委託し適切に処理する。
残薬及び洗浄液は、河川、下水等水系に流さないようにする。

14. 輸送上の注意

容器に異常の無いことを確かめ、転倒、落下しないように積載する。

国連番号： 1993
品名 (国連輸送名)： FLAMABLE LIQUID, N. O. S.
国連分類： 3
容器等級： III
海洋汚染物質： 該当
緊急時応急措置指針番号： 128

15. 適用法令

毒物及び劇物取締法： 非該当
化審法： 非該当
労働安全衛生法
表示対象物 (法57条、施行令第18条)： 該当せず。
通知対象物 (法57条の2、施行令第18条の2)： 該当せず。
化学物質排出把握管理促進法 (化管法)
指定化学物質： 該当せず。
消防法： 第4類第2石油類 (非水溶性液体) 危険等級III

16. その他の情報

引用文献

JIS Z 7252 : 2019、GHSに基づく化学物質等の分類方法
JIS Z 7253 : 2019、GHSに基づく化学品の危険有害性情報の伝達方法—ラベル、作業場内の表示及び安全データシート (SDS)

本データシートの記載内容は、この化学品の取扱い時の安全性に関する参考情報であり、安全性や品質の保証をなすものではありません。また危険性、有害性の評価は、必ずしも充分ではありませんので、取扱いには充分注意を払って下さい。